

「言語聴覚士の難病患者サポート」

一般社団法人 愛知県言語聴覚士会
副会長 言語聴覚士 村瀬 文康
(株式会社ジェネラス
訪問看護ステーションほたるみどり)

皆さんは、言語聴覚士という職種をご存知でしょうか？リハビリテーションの専門職というと、理学療法士や作業療法士は耳にしたことはあると思いますが、残念ながら一般的に言語聴覚士をご存知の方は多くはありません。

言語聴覚士は、「話す、聴く、食べる、のリハビリテーションのスペシャリスト」です。(日本言語聴覚士協会 HP より) 認定資格としては歴史がありますが、国家資格となったのが1999年と、まだ4半世紀足らずの専門職なので、皆さんに馴染みがないのも無理はありません。

今回、このコラムで2つのことを皆さんに知っていただけたらと思います。
1つは「言語聴覚士」について、そして2つめは「リハビリテーション」についてです。

【言語聴覚士について】

まずは、1つめの言語聴覚士についてです。人が生きていくときに、話す、聴く、のコミュニケーションと食べるという行為は、切っても切れない営みです。

人にとってのコミュニケーションは、ただ要求を伝えたり、情報を得たりするだけでなく、家族と笑い合ったり、仲間と励まし合ったりする心情的な関わりや、親、会社の役職、町内会の会長などの社会的な役割を果たすために欠かせないものです。

食べるという行為も、人間はただ栄養を摂取するだけではなく、冠婚葬祭、デート、という人が関わる場面でも食べるという行為をします。それは「食事」という行為を、コミュニケーションという意味で捉えているとも言えます。

難病当事者の方は、そんなコミュニケーションと食べる機能が低下することが多く、言語聴覚士が役割を持って支援することができるリハビリテーションの専門職です。この機会に知って頂けたらと思います。

【リハビリテーションとは】

そして2つ目のリハビリテーションについてです。すでに病院、もしくは在宅でリハビリテーションサービスを受けている方もいらっしゃるかと思います。まず皆さんに知

っていただきたいのは、リハビリテーション=訓練ではないということです。

皆さんが、ご存知の通り、私たちリハビリテーション専門職の役割は、適切な評価、訓練を行い、心身機能の改善を図るというものです。一般的に認識されている「リハビリ」の目的もそうだと思います。これを医学的リハビリテーションといいます。

一方、現在、日本は世界有数の長寿国です。そして高齢者の多くは複数の慢性疾患を抱えながら暮らしています。また、昨今の医療の発展は、慢性疾患を持ちながらの人生が延長していくとも言えます。

日本の医療は、治す医療から支える医療まで幅広い対応を求められています。障害においても、訓練をして機能改善を目指すことから、障害を持ちながらも地域で暮らすための社会活動を支援することまで求められる時代になってきています。それを社会的リハビリテーションと言います。

わたしたち言語聴覚士も、訓練をして改善を目指す「医学的リハビリテーション」から、コミュニケーション障害、摂食嚥下障害を持ちながらも地域で自分らしく暮らしていくための「社会的リハビリテーション」まで幅広く役立つことができたらと考えております。

私は、臨床において「意思決定の支援」を大切にしたいと考えています。どのように生活し、生きていくかは、本人・ご家族が意思決定をしていくことが求められます。しかし、それは迷いや戸惑いの連続です。「いまやりたいことやできること」を専門職の助言から知り、いまを充実させることも日々の暮らしには大切なことだと思います。

当事者の皆様やご家族にとって、言語聴覚士が機能訓練士としての役割だけでなく、社会的リハビリテーションという観点をもって、「したい暮らしやできる生活」を一緒に考える伴走者としてもご利用いただけたらと思います。

【言語聴覚士については以下を参照ください】

一般社団法人 日本言語聴覚士協会

<https://www.japanslht.or.jp/>

一般社団法人 愛知県言語聴覚士会

<https://aaslht.jp/>